

1 教科について

国語

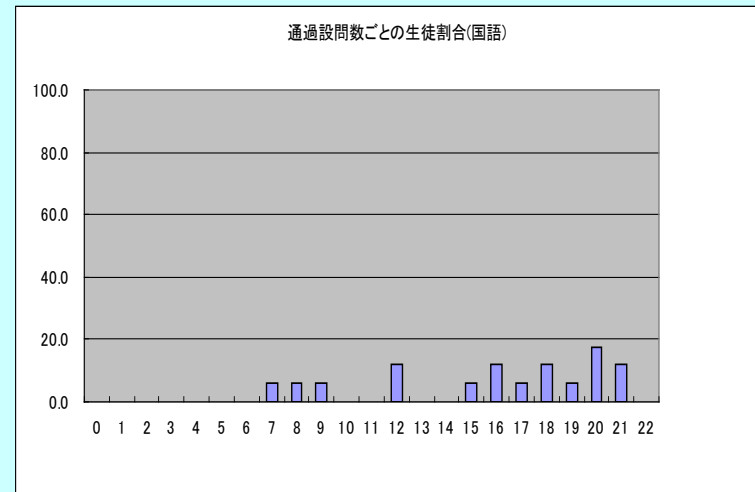
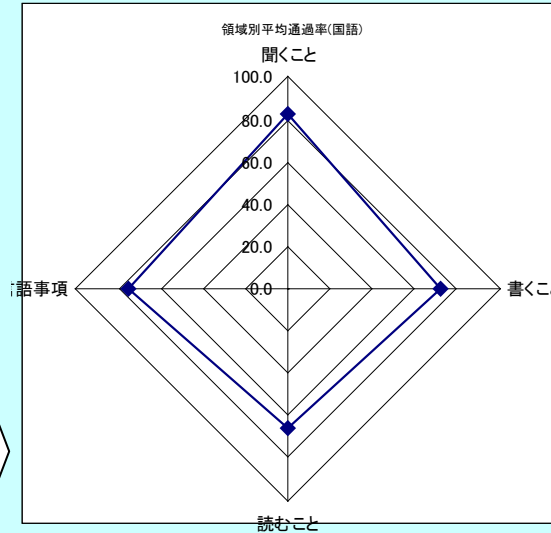
昨年度の課題

- ①「書くこと」の領域での、記述の量の通過率が県平均より 20.4 ポイント低い。無答率が 18.5%と高いことの影響も大きい。
- ②「読むこと」の領域での、登場人物の心情を把握する問題の通過率が低い。

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- ①「書くこと」への抵抗感が少なくなるよう、少ない量でも「書く」活動の取り入れるようにした。意見を書くときには根拠を明示する指導をした。
- ②文学的教材において、登場人物の描写から心情を推察する指導を行った。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 71.9 % 県平均 77.5 %



成果 ◎:「基礎・基本」定着状況調査
◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎「書くこと」の領域の、記述の量の誤答率は相変わらず高いが無答がなくなった。(18.5%→0%)
- ◎「読むこと」の領域の、登場人物の心情を把握する問題の無答率が低くなった。(40.7%→23.5%)
- ◇「書くこと」における無回答がなくなった(13.8%→0%)
「書く」機会を増やし、書くことへの抵抗感を少なくした。

重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査
◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎「言語事項」において、行書の知識の定着が、通過率が 23.5%と低い。
- ◎「読むこと」の領域において、段落相互の関係をとらえる設問で誤答率が 58.8%と高い。文章構成をとらえる力が弱いと思われる。
- ◇「言語事項」において、行書と楷書の違いを指摘する問題の正答率が 35.7%と低い。また、敬語の謙讓語を答える正答率が 9.3%と低い。尊敬語と謙讓語の混同が見られる。
- ◇「書くこと」の領域において、条件に従って、自分の感想を書く力が弱い。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 書写の指導において、楷書と行書の違いを意識させる。生徒に違いを指摘させたり、繰り返して指導することで、行書の知識の定着を図る。
- ② 説明的文章の指導で、文章構成図をつくり、論の展開を明確にする指導を意識する。学習のまとめでも文章構成図の復習を行い、生徒が文章を書くときの参考にもさせる。
- ③「書くこと」への抵抗感がまだ強いので、内容を焦点化して短い文章を書くことや、すでにある文章の続きを書くなど、「書く」機会を増やして、「書くこと」に慣れさせる。

来年度の目標値

- 「言語事項」の行書の知識を問う設問の通過率を 60%以上にする。
- 文章構成や段落の要旨に関する設問の通過率を 60%以上にする。

中学校学力向上対策事業研究指定校 指導方法等の改善計画

数 学

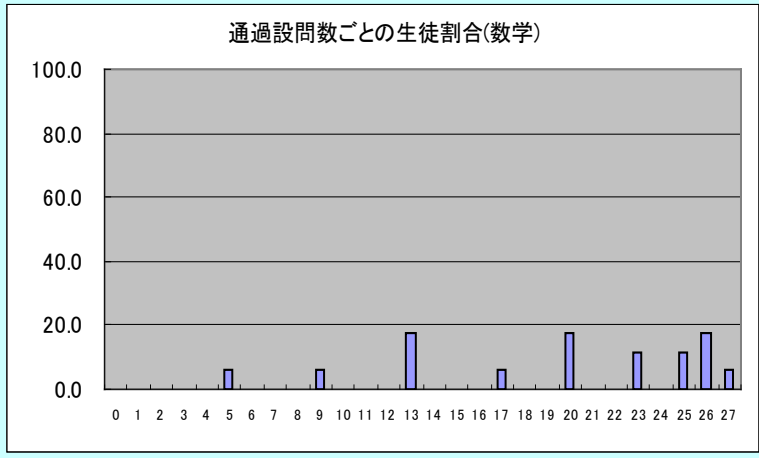
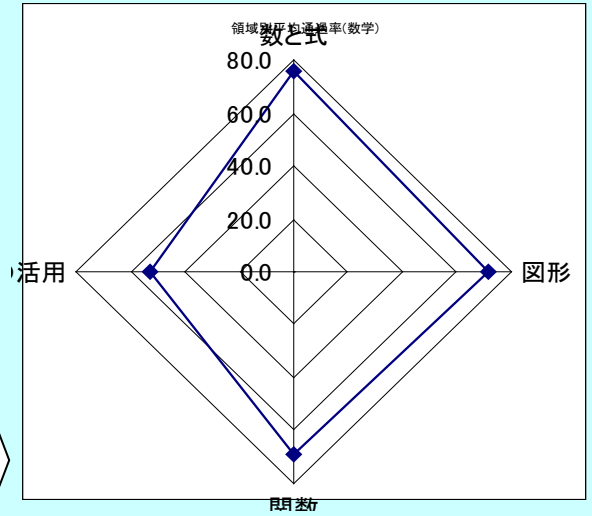
昨年度の課題

- ① 「図形」の領域・空間図形の面と辺との位置関係について、直方体の辺と垂直な面の位置関係について理解されていない、-51.1ポイント
- ② 「数量関係」の領域・反比例に関する問の誤答や無回答が目立った。
-7.ポイント

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- ① 基本問題の内容を 20 段階に分け、ステップアップ方式でドリルし、個々の基礎学力を伸ばすとともに実態把握する。
- ② 毎授業でのワークシートの内容に数学の苦手な生徒にもできる基本内容を入れる。
- ③ 100 点満点に換算し直して、評価をして返し、提出物への意欲を高める。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **72.1%** 県平均 **72.6%**



成果 ◎: 「基礎・基本」定着状況調査
◇: 全国学力・学習状況調査

◎平均通過率は昨年度より 2.4 ポイント上昇した。
◎通過率 30%未満の生徒の割合が 7.4%から 5.5%になった。

重点課題 ◎: 「基礎・基本」定着状況調査 ◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎ 「数と式」 ②-3 正しくないことは分かっているも、具体的に例をあげて説明が示されていない。
- ◇ A11-(3)
「数量関係」において、長方形の縦 x cm, 横 y cm, 周囲 16cm で, y を x の式で表す問題の正答率が 21.4% と低い。
- ◇ B1-(2)
「数と式」において、身体活動量と身体活動の強度, 身体活動の実施時間の 3 つの数量関係を連立方程式で解く問題の正答率が 25.0% と低い。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 1年生の1学期に正・負の計算を定着させる。
全問正解まで、同じテストをくり返し、個別で指導する。
- ② 文字式の計算で、文字1つと数の加法・減法の定着を図る。
- ③ 誤答を生徒に発見させ、班で確認し合い、発表させることで同じ誤答をしないようにさせる。

来年度の目標値

- 学校平均通過率を今年度より3ポイント上昇させる。
- 通過率 30%未満の生徒の割合 0にする。 5.5%→0

中学校学力向上対策事業研究指定校 指導方法等の改善計画

英語

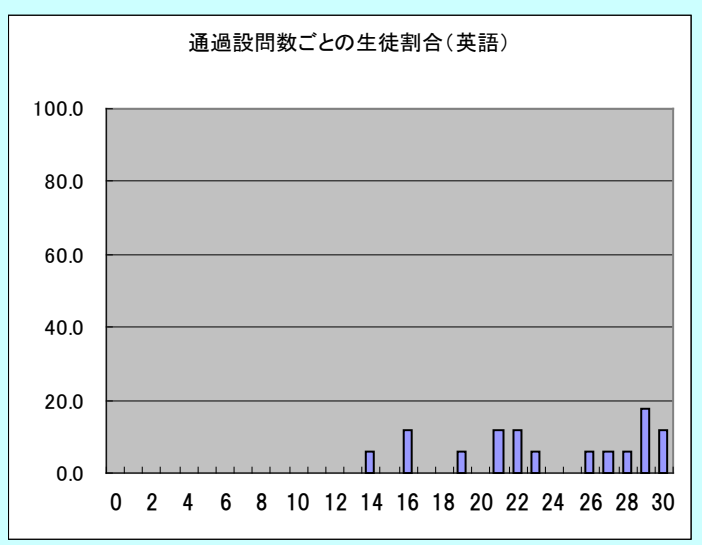
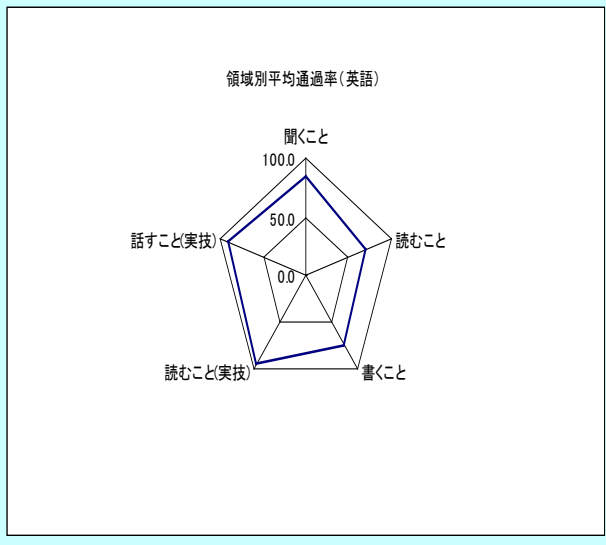
昨年度の課題

- ①基本的語彙（曜日・月日・数字）が聞き取れていない。
- ②10（1）I get up at ～の通過率 29.6%と低く、基本的な文が書けていない。
- ③読むこと6（1）What（ ）Akiko and Ken do ～？の（ ）に do を選んで入れられない。

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

- ①基本的な語彙の定着を図るため、小テストを定期的実施する。
- ②基本文の定着を図るため、1年生の教科書で扱った基本表現を暗唱させる。
- ③文型ドリルで1年生で扱った文を復習する。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **78.8%** 県平均 **70.2%**



成果 ◎：「基礎・基本」定着状況調査
◇：全国学力・学習状況調査

- ◎平均通過率は昨年度より13ポイント上昇した。
- ◎通過率30%未満の生徒の割合が0になった。
- ◎通過率60%以上の生徒の割合が19.4ポイント上昇した。

重点課題 ◎：「基礎・基本」定着状況調査
◇：全国学力・学習状況調査

◎読むこと6 4 What（ ）Masao and Takashi do ～？の（ ）に do を選んで入れられない。助動詞について知識が十分でなく、会話文を組み立てられない。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①1年生の1学期に一般動詞の do を助動詞 do の指導の前に定着させる。
(例) I do judo. →Do you do judo?
- ②Wh 一疑問文を指導する際、What do you do ～？の文型の定着を図る。
- ③be 動詞の疑問文と一般動詞の疑問文の違い、主語による do / does の助動詞の使い分けのルールを生徒に発見させ、ドリルと コミュニケーションで使うことによって定着させる。

来年度の目標値

- 学校平均通過率を今年度より3ポイント上昇させる。
- 通過率30%未満の生徒の割合0を維持し、60%以上の生徒の割合を85%以上にする。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，生徒質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，生徒質問紙）

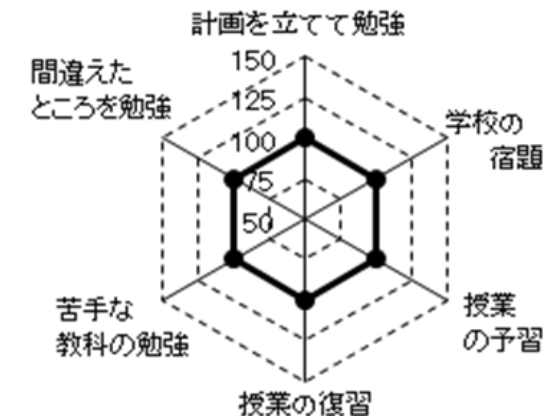
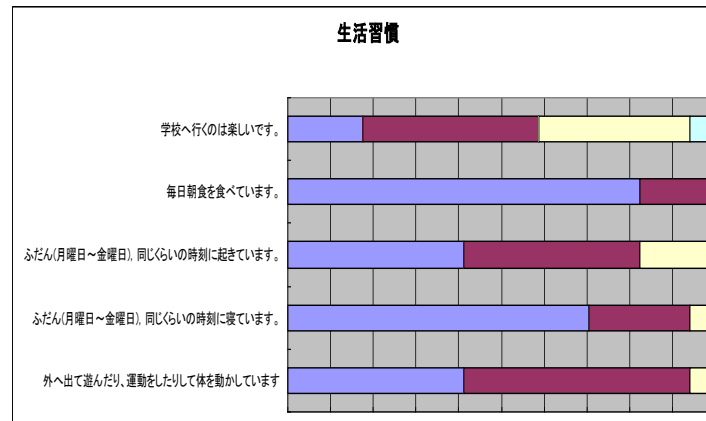
(1) 生活・学習

昨年度の課題

- ① ◎ 将来の夢や目標を持っている。64%

昨年度の課題を受けて
具体的に取組んだ事項

- ① 3年間の進路を見通した進路相談を定期的に実施し、進路記録（キャリアノート）を残しながら、進路指導を実施する。
- ② 各生徒の良さを認める活動を実施し、その功績を全校集会で紹介、評価する。



取組の成果 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)

◎・・・「毎日朝食を食べる。」が,100%になった。

◇

改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)

- ◎・・・ 「まったくあてはまらない」と答えた
- (6)予習をする。・・・52.9%
 - (32)読んだ本の内容を友達や家族と話す。・・・41.2%
 - (25)ほめられたいから勉強をする。・・・41.2%

◇・・・

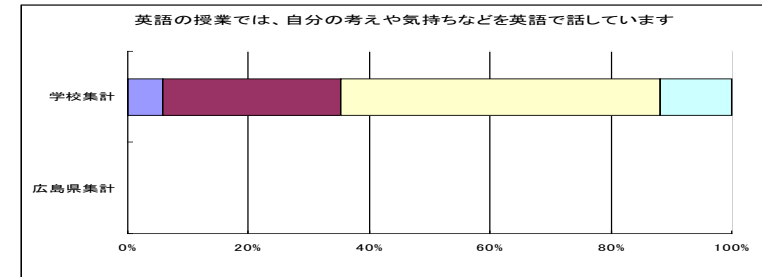
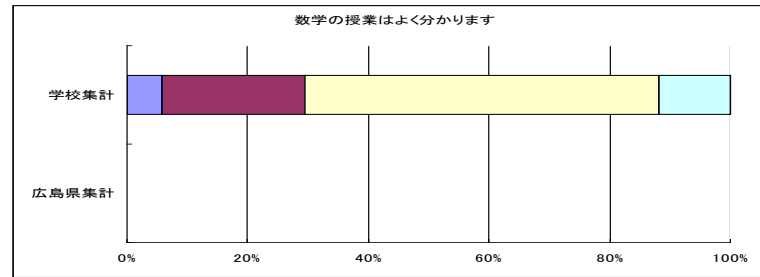
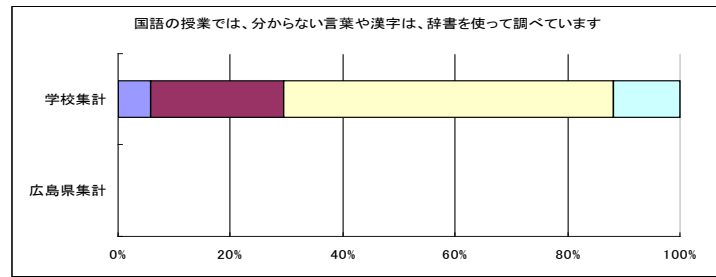
今後の具体的な取組の内容

- ①□ 学習計画を定期的に立てさせ,家庭学習の時間を学年+0.5時間を定着させる。
- ② 朝読書を充実させるために,図書委員会で図書の紹介をする。

来年度の目標値

- ・毎日朝食を食べる。100%を維持する。
- ・自他の良さが分かる。50%→60%

(2) 教科



	取組の成果 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	生徒の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎「書くこと」の領域の、記述の量の誤答率は相変わらず高いが無答がなくなった(18.5%→0%) ◎「読むこと」の領域の、登場人物の心情を把握する問題の無答率が低くなった。(40.7%→23.5%) ◇「書くこと」における無回答がなくなった(13.8%→0%)	◎「国語の勉強は好きです」と回答した生徒の割合がH20年度より1.6ポイント減少している。 ◎「漢字のくり返し学習を行うのが好きです」と回答した生徒の割合が44.9%と少ない。 ◇条件に従って、自分の感想を書くことの正答率が17.9%と低い。条件に従って、意見や修正案を書くという設問でも、正答率が5割程度になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する抵抗感を払拭するため、ゲーム形式で復習や導入をする工夫をしていく。 漢字をくり返し学習することによって、達成感をもてるよう小テストを取り入れる。 条件作文を授業に取り入れて慣れさせる。
数学	◎平均通過率は昨年度より2.4ポイント上昇した。	◎・・・ 1 －1の正答率を上げる。正・負の加減計算の復習を繰り返し行い、定着させる。 ・誤答を見つけるだけでなく、具体的な例をあげ、説明させる説明力の育成に取り組む。 ◇・・・「数学の勉強は好き」(肯定的評価50%)であり、「数学の勉強は大切だ」(肯定的評価82.1%)と差を小さくする。	<ul style="list-style-type: none"> 「数と式」において、誤答の箇所を見つけ出し、その根拠を明確にする指導を徹底させる。 ワークシートの内容の工夫、評価の工夫などを行い、意欲をもって「解く」態度を養う。
英語	◎平均通過率が、13ポイント上昇した。(昨年度62.8→今年度78.8) ◎通過率30%未満の割合が0になった。	◎昨年度と同じ問題に課題が残った。 ◎「英語が好き」(肯定的評価70.6%)に対して、「英語の授業を楽しみにしている」(肯定的評価64.7%)である。授業が楽しく充実した内容になるように言語活動の工夫を行っていく。	◎doの2つの用法を1年1学期に指導し、継続的に言語活動で使うことにより定着を図る。 ◎基本的な語彙・文法・音読の力はかなりついているので、言語活動を増やして活用する力を伸ばしていく。そのためには、単元目標を明確に設定し、単元の最初からその目標に向かって一直線の指導を行う。

来年度の目標値 Plan	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・数学・英語各科の目標達成 ・自他の良さが分かる。50%→60% <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">Do</p> <p style="text-align: right; font-size: 1.2em;">Check 検証 Action Check</p>
------------------------	---

指導改善のための実施スケジュール

結果の分析・H21の改善計画の見直し H22の改善計画の実施

次年度の計画

	～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
(国語)	結果の分析 		「書くこと」の指導	の継続			取り組みの見直し	改善	
【教科】 (数学)	結果の分析 	①「数と式」などの基本的な指導を行う。				取り組みの見直しと改善①			
(英語)	結果の分析 		継続的に言語活動で	使うことにより定着	を図る	再検証	取り組みの見直し	改善	
【生活・学習】	結果の分析 	②各生徒の良さを認める活動を実施							